

## 小中一貫教育校の設置に関するQ & A

### 1 小中一貫教育校の設置と学校再編問題

#### Q 1 小中一貫教育とは何か

A 小中一貫教育は、現在、小学校6年、中学校3年に分かれている義務教育9年間を連続した期間として考え、一貫した教育課程を編成し、継続的な指導のもと、確かな学力、豊かな人間性及び健康・体力などを育むものです。

#### Q 2 関本町に小中一貫教育校を設置する理由は何か

A 関本町では地区全体で児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでいます。

このようななか、関本町に学校を存続するためには、小規模校の課題を克服できる教育効果の高い環境づくりを進める必要があり、小中一貫教育校の設置は最善の方法と考えられます。

教育委員会では、小中一貫教育校を設置することにより、小学校と中学校の連携・接続の強化、一定の集団規模の確保などを通じて教育効果を高めることにより、小規模校の課題を解決したいと考えております。

現在の関本町では学校間の結びつきや学校と地域との連携が図られるなど、三校を同じ地域の学校として支える環境も整っており、また関本町に学校を残してほしいとの地域からの意見も寄せられております。

教育委員会では、以上のような理由から、関本町がこれまで培った文化を踏まえ、現在の関本中学校区の枠組みを維持した学校づくりを進めるため、小中一貫教育校の設置が望ましいと考えております。

#### Q 3 関本中学校と常北中学校の統合の方が望ましいのではないか

A 現在の関本中学校区の枠組みを残すことにより、これまで取り組んできた関本中学校区内の小中連携教育の取組、関本町における学校間の結びつき、地域との連携などを生かすことができるため、より良い教育環境づくりにつながるものと考えております。

#### Q 4 新たな校舎を建設した場合、今後は中学校の統合はないのか

A 今回の小中一貫教育校の設置検討は、関本町に学校を残すための方策でもあります。現在の中学校区を越えた統合は今のところ想定しておりません。

**Q 5 富士ヶ丘小の児童数は少ないが、教職員がよく対応してくれているおかげで、伸び伸びと育っている。一貫校を設置して、児童生徒数を増やさなくてもいいのではないか。**

A 5 小規模校では、一人一人の状況に応じた丁寧な指導が可能ですが、小中一貫教育校を設置することにより一定の学校規模が確保されれば、多様な集団を形成することが可能となり、教職員の人数も増えることから、より充実してきめ細かに指導することが可能となります。

また、それぞれの校風や伝統を小中一貫教育校に継承する事は大切であり、教員の指導面も含めて現在の三校にとってプラスになるような統合を目指したいと考えています。

## 2 小中一貫教育校の教育活動について

**Q 6 日立市の中里小中学校との違いは何か**

A 中里小中学校は、小学校と中学校の校舎・敷地が別々で、教員や児童生徒が移動して授業や交流を行う「連携型」と呼ばれる小中一貫教育に取り組んでいます。

関本町では、小学校と中学校が同じ校舎・敷地で義務教育9年間を通じて授業や交流を行う「施設一体型」と呼ばれる小中一貫教育を行う計画です。「施設一体型」は水戸市の国田小中学校やつくば市の春日学園で取り組まれています。

**Q 7 施設一体型の小中一貫教育を行う理由は何か**

A 小学校と中学校の施設を一体化する事により、児童生徒が日常的に交流を深められる点、教職員が協働して指導する事により児童生徒への理解が深まる点、小学校と中学校の施設を効果的に共用できる点など、連携型に比べ教育環境の充実が図られます。

これらに加え、関本中学校が改築時期を迎えるなかで、改築に合わせて小中一貫教育に合わせた施設整備ができる点なども踏まえて、施設一体型の小中一貫教育校の設置が適切と考えております。

**Q 8 : 小中一緒になることでいじめが増えるのではないか**

A いじめはあってはならない問題であり、小中一貫教育校の設置を問わず全力で防止する問題です。

むしろ、先行する事例では上級生が下級生の面倒をよく見るなどの効果があると聞いております。

**Q 9 部活動の選択肢が限られるのではないか？**

A 部活動については、生徒数の関係上、どうしても選択肢が限られることとなりますが、小学校高学年段階からの部活動参加など一貫校ならではの特色ある取組を進めたいと考えております。

**Q10 小学校から教科担任制を取り入れるのか**

A 現在、小学校で行われている学級担任制に加え、教科ごとに教える教員が変わる教科担任制を導入する計画です。教科担任制は、教員のそれぞれの専門性を組み合わせるため、児童生徒の学力向上が期待されます。また、複数の教職員が一人の児童生徒に関わり、教員同士が意見交換をし合いながら児童生徒の変化に対応することが可能となります。

**Q11 教科担任制の導入は教員への多忙を強いる結果につながるものが心配され、子どもたちへ悪影響を及ぼすと考えられる。**

A 小学校での教科担任制は全ての教科で行われる訳ではありません。教員の指導時間数を考慮して多忙感を強めないような実施を考えています。また、単元の内容によっては複数の教員が共同して授業を行うティームティーチングによるきめ細かな指導を考えています。なお、小中一貫教育校に勤務する教員は小学校教諭・中学校教諭の両方の教育職員免許所有者を考えています。

**Q12 小中一貫教育校では小学6年生が最高学年としての自覚をする機会が失われる**

A 子どもの精神的な成長を促すことは重要であり、節目としての中学校入学は大切な時期だと認識しております。一貫校の設置に際しても、子どもたちには心機一転の機会と捉えられるように小学校卒業式、中学校入学式等の行事を組み合わせながら、指導支援の面では小中学校がつながる体制を目指します。

**Q13 校庭や体育館を小中学校で共有することで不都合は生じないか。課外活動を含めて不都合は生じないか。部活動とスポーツ少年団が同時に使用しても問題はないのか。**

A 通常の授業については、同規模校の先行事例や授業時間を考えると十分に対応できるものと考えております。また、課外活動については、現関本第一小学校の校庭を有効に活用することも視野に入れて検討したいと考えております。

**Q14 小学校と中学校では授業時間や休み時間が違うがどのように対応するのか？**

A 先行事例では、ノーチャイム制の導入や小・中学校の授業交流を実現するために1・3・5校時の開始時間や昼休みを合わせる等の工夫をしておりますので、それらを参考に最も良い方法を検討したいと考えております。

**Q15 小中一貫教育校では英語教育に力を入れてほしい**

A 今後、小中一貫教育校の教育課程を編成する中で検討を進めます。

**Q16 障がいのある児童生徒への対応について**

A 特別支援学級の設置や特別支援教育支援員の配置により対応します。

### **3 学校施設の建設について**

**Q17 現在の関本中学校は校庭が狭く怪我が心配される。**

A 例えば学校敷地の段差を極力解消し、新校舎等もできるだけ機能的な配置を心がけるなど、現有面積の中で有効な運動場の面積を考えております。また、小学生と中学生の体格差などに配慮した教育活動を進めてまいります。

**Q18 厳しい財政状況を考えると新校舎を建設するのはいかがなものか？**

A 新しい校舎、体育館を建設するにあたっては、国の補助制度等を活用し市の負担をできる限り軽減するように努めたいと考えております

**Q19 新しい校舎、体育館の建設スケジュールの内容を知りたい**

A 平成25年度に、新しい校舎、体育館の実施設計を行い、平成26年度から27年度にかけて校舎、屋内運動場などの建設工事を進める計画です。建設にあたっては、平成25年度に設置される小中一貫教育校設置協議会の場でご意見を頂くとともに、進行状況などをお知らせしていきます。

**Q20 工事期間中の部活動や騒音による子どもたちへの影響が心配である。**

A 工事期間中は学校生活に様々な影響がでることが予想されますので、代替施設を確保することや騒音が発生する工事は出来るだけ長期休業中に行う等の配慮をします。

**Q21 インターネット環境を充実させてほしい**

A 現在、北茨城市では全ての小中学校のパソコン教室で、児童生徒1人1台のパソコンが使用できる環境にあり、また、光回線によるインターネット環境も整備されています。今後もICTの発達を踏まえ環境の整備を進めます。

**4 その他**

**Q22：富士ヶ丘小学校から関本中学校までの通学路は危険箇所があるため、スクールバスの運行をお願いしたい**

A 通学路の安全を確保するためにもスクールバスの導入を含め通学路の安全確保には万全を期したいと考えております。

**Q23：少子化の時代に9年間同じ学校に通学できる環境は最高に良い。小学生用に学童保育の設置を検討してほしい**

A ご意見を踏まえて必要性を慎重に検討いたします

**Q24：小中一貫教育校開校後、関本第一小学校及び富士ヶ丘小学校の跡地はどのように活用するのか**

A 関係者の意見を踏まえながら、市全体で慎重に検討を進めたいと考えます。

**Q25：今後、他の学区で小中一貫教育をどのように取り組むのか**

A 小学校と中学校が連携して教育上の課題を解決することは大事な事ですので、引き続き市全体で小中連携教育の強化を図ります。特に、関本町に小中一貫教育校設置後は、その成果を研究発表や情報提供を通じて小学校と中学校が連携した指導の在り方や課題解決に生かすことを考えています。